

委員会・部局名	教学委員会
記入日	2023年5月1日

2022年度 活動報告書

I. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考
	項目		指標	説明（後期に向けた方針等を含め）	
1	項目	認証評価受審に向けた対応	D	実施中の各種施策を認証評価のエビデンスとして示すための資料を作成途上であり、二次案原稿統一期限までの完成を目指している。	備考
	到達目標	認証評価に係る自己点検評価報告書二次案原稿の完成 ⇒ 自己点検評価報告書二次案原稿において、特に以下の項目に係る修正・補充を実施するための作業を実施（①3ポリシーの教学面における具体化状況、②学修成果の把握方法、③教学マネジメント体制、④内部質保証）。	A	到達目標を達成した。	
①年間計画			②中間到達度評価（半期）		備考
2	項目	他の委員会との連携（部局横断体制の構築）	C	学生委員会との合同会議の実施。入試（総合型選抜・学校推薦型選抜）における小論文試験素材を入学前教育にも活用する仕組みについて検討。	備考
	到達目標	主として以下の項目について、関係する他の委員会と連携して業務を遂行する体制を構築する〔①デジタル機器利活用能力の向上（学生委員会、情報システム委員会）、②退学防止施策（学生委員会）、③入学前教育（入試広報運営委員会）、④リメディアル教育（学生委員会）※カッコ内は主要連携先〕。	C	連携先の各委員会委員長との私見共有に留まった。	
①年間計画			②中間到達度評価（半期）		備考
3	項目	《IR》退学防止に関する施策の検討・実施	B	短期的視点での施策の整理は要修正箇所の有無等を委員会で協議すれば完了。中長期的な視点での施策は、引き続き学生委員会と協議し、可能なものから随時開始。	備考
	到達目標	既存（実施中）の施策（短期的視点での施策）を認証評価に係るエビデンスとして整理する。学生委員会との協働により、大学への帰属意識の向上等、教学部門以外の視点に立った施策（中長期的視点での施策）の検討・実施。	C	認証評価に係るエビデンス作成の過程で委員会としての成績不芳者対応の効率化方針を決定。中長期施策は引き続き検討中	
①年間計画			②中間到達度評価（半期）		備考
4	項目	《IR》カリキュラム運用状況の点検	B	外国語科目の履修および単位修得状況がGカリキュラム編成時の想定と齟齬があるため、改善策を検討中。	備考
	到達目標	Gカリキュラム生の単位修得状況を把握し、要改善箇所を抽出する。	B	外国語科目の履修について制限緩和を決定。具体的にはIの履修を前提として、II、III、IVについては順次履修を強く推奨しつつも、制限は解除することとした。	
①年間計画			②中間到達度評価（半期）		備考
5	項目	教学資料（シラバス・ナンバリング表・履修モデル等）の活用策の検討	E	来年度前期の教学ガイダンスに向けて検討予定。	備考
	到達目標	既存の上記教学資料の、ガイダンス等における効果的な活用策を整理。	E	学生にとって情報過多となることが懸念されるため、引き続き検討。	
①年間計画			②中間到達度評価（半期）		備考
6	項目	オンライン授業実施状況の点検、改善	A	学務課において恒常的に対応している他、必要に応じて委員会で対応策を協議している（今後も継続）。	備考
	到達目標	対面授業と同等の教育効果を確保するため、教員からの技術的相談や学生からの意見等を受け付け、適宜改善のための対応を図る。	A	半期報告と同旨。	
①年間計画			②中間到達度評価（半期）		備考
7	項目	所管事項の効率性の点検、改善（デジタル化推進の観点）	E	前期において特筆すべき成果はない。引き続き業務効率の改善・向上を目指す。	備考
	到達目標	Google Workspaceをはじめとする既存システムの活用による業務効率化を恒常的に図る。	B	次年度以降、業務連絡等にGoogle Classroomを活用する方針を策定。	

※下線部は中期計画との関連性が特に高い項目、《IR》はIR推進に係る項目。

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期（半期報告書）・次年度（年間報告書）以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
(半期) 自己点検評価報告書二次案作成に関する作業が当初想定よりも遅れており、後期はこれに優先的に取り組む。
(年間) 項目を細分化し過ぎて進捗が低調となっている嫌いがあるため、設定項目の簡素化などを検討する。

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
成績不芳者に対する面談による助言・指導につき、前年度に引き続き完全な個別面談とし、教員たる教学委員全員が分担して面談にあたった。面談に先立ち、学務課職員により単位修得上の問題点（例えば、単位未修得の必修・選択必修科目）が記入された面談資料が用意されており、的確な助言・指導が可能となっている。

IV. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
中長期的視点での退学防止に関する施策の検討として、学生委員会との協働を開始したこと。学生の退学理由が必ずしも教学部門の所管事項に限られないことも踏まえ、部門横断的な対応が必要と判断した。

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	学生委員会
記入日	2023年7月14日

2022年度 活動報告書

1. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考
	項目	指標	指標	説明（後期に向けた方針等を含め）	
1	項目	障がいのある学生への配慮（合理的配慮への対応）	C	<ul style="list-style-type: none"> 学園あてトイレの改善提案に多目的トイレの整備を追加打診（なお現状は、短大校舎に多目的トイレ、大学校舎内1109教室横に障がい者専用トイレあり）。 学生本人からの相談の有無にかかわらず、精神的にノーマルではない状態の学生に対して、学生相談室、保健室等、連携して対応。個人情報保護の観点から、情報共有は最低限にとどめるが、学生相談室において記録は残している。 	
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 合理的配慮相談対応 「障害者差別解消法」の令和3年5月改正により、障害者に対する「合理的配慮」が「努力義務」から「法的義務」に変わる（施行後3年以内）ことに対応して、障がいをもつ学生への対応、及び学内施設（バリアフリー、多目的トイレ等）の改善を検討 	C	<ul style="list-style-type: none"> 中間到達度評価から大きな変化なし。 メンタルヘルスに関わる相談が多くある現状から、障害のみならず疾病への対応も必要（両者の境界は明確ではない）。 	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリー、多目的トイレ等の施設改善に関しては、法人に提案する以上の活動は難しい。 2023年度、日本学生支援機構「心の問題と成長支援ワークショップ」に参加予定。
2	項目	多様性への配慮・対応	B	<ul style="list-style-type: none"> 多様性への配慮について、学生向けガイダンスを実施（4月）。 トランス男性学生の男性トイレ使用容認（4月）。 学生生活ガイダンスを実施。本学における学生相談体制、多様性への配慮等について説明（9月）。 	
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 文化背景、ジェンダー等の多様性への対応 外国籍の学生や性的マイノリティ学生の増加が見込まれることから、多様性に関する理解を広める。 障がいを含む、多様なバックグラウンドをもつ学生の受け入れを進め、学修環境を改善。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学生へのガイダンス等を実施。 通称名使用制度を次年度に提案予定。 	
3	項目	学生相談室の運営	A	<ul style="list-style-type: none"> 学生相談室を1階に移転（2021年9月）。 今後は具体的に相談に的確に対応していく。 多様な相談窓口を学生に告知（4・9月）。以後も定期的に相談室・保健室等、窓口の周知を図る。 オンライン相談窓口設置（2021年10月）、チャット機能の運用開始（同11月）。 相談室と保健室とで定例の情報共有ミーティングを実施（2021年12月から継続）。 	
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> オンラインによる相談対応 各部署との連携 相談室の機能拡充（多様な相談窓口・方法を設け、学生が相談しやすい環境を構築しつつ、相談室がハブ機能をもつ）。 多様な相談窓口を学生に告知。定期的に相談室・保健室等、窓口の周知を図る。 オンライン相談におけるチャット機能の運用開始。 保健室・学外専門家との連携強化を図る。相談室と保健室とで定例の情報共有ミーティングを実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 従前に比して、相談体制を強化できた。 目標達成を示すエビデンスの作成が次年度の課題となる。 	
4	項目	学生会運営支援	B	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度学生会活動開始（Classroomに26名の学生が参加） 新「学生会室」（5階）が活発に利用されている。 「清風祭実行委員会」活動開始（5月） 木更津市制施行80周年記念事業「きさらづ未来会議」に学生6名が参加。学生たちの活躍に渡辺市長から感謝状授与（5～7月）。 4つの同好会・サークルが活動開始・継続・再開。活発に活動中。 放課後子ども教室「木ー小あそぼん」に学生ボランティアスタッフとして参加（7月～）。 	
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある学生会組織に再編 学生会活動や清風祭の活性化を支援 活動の継続性を保持するため学力特待生を中心とした運営に再編 	A	<ul style="list-style-type: none"> 本学学生たちが「木更津市制施行80周年」関連の事業に大きな貢献を果たした。 清風祭を3年ぶりに開催。盛況であった。 清風祭、サークル活動、地域貢献のいずれにおいても、学生たちが積極的に活動し、学内外から高い評価を得た。 	
5	項目	中途退学、休学及び留年への対応	C	<ul style="list-style-type: none"> 退学防止、成績不芳に向けたアプローチ（5月末～6月） i) 6月フレッシュマンセミナー第10回を担当教員による対面で実施（6月第2週）。 ii) 6月第2週、サークル活動の支援を開始。 iii) 学内施設活用の方策：トレーニングセンター利用講習の実施。 教育学部・学生部共同で退学防止の取り組み開始：第1回ミーティング（7月） 	
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 退学防止のための全学的な取り組み（例：退学防止WG設置検討等） 教学委員会、スポーツ部運営委員会を含めた全学的課題として、入学時のミスマッチの予防、入学後の問題解消について検討。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 中間到達度評価から大きな変化なし。 	
6	項目	ハラスメント対応窓口の設置	B	<ul style="list-style-type: none"> 対面とオンラインの窓口設定。各種ハラスメント対応を学生に告知。学生からの申立てについては学生委員会が関与（4月）。 学生相談室等におけるハラスメント対応を学生に告知（4月）。 	
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 学生相談室ならびに学務課学生係に窓口を設定。 各種ハラスメント対応を学生に告知。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 中間到達度評価から大きな変化なし。 ハラスメントの訴えなし。 	<ul style="list-style-type: none"> 2023年度、相談及び苦情窓口をホームページ等へ掲載し、学生への周知を図る。

委員会・部局名	学生委員会
記入日	2023年7月14日

2022年度 活動報告書

1. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考
	項目	指標	指標	説明	
7	項目	オフィスアワー制度の全学的実施	B	・対面でのオフィスアワー復活（5月）。 ・オフィスアワー実施状況の調査再開。 ・教員にアプローチするための多様な手段を告知（4月）。	・学生にオフィスアワーを再案内（他の相談窓口と併せて：9月）。
	到達目標	・対面、メール、オンラインなど、多様なアプローチの設定	③年間到達度評価		
			指標	説明	
	到達目標		A	・全専任・特任教員がオフィスアワーを漏れなく実施。	
8	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考
	項目	学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用	C	・5月13～31日、トイレの満足度が低い要因について、学友会学生へヒアリング調査を実施（回答学生16名）。6月3日、調査結果を学長に報告。 ・9月実施予定の満足度調査の項目を学生と共に検討。	・満足度調査の結果を踏まえて、今後も学修環境改善に努める体制を構築。
到達目標	・学生満足度調査の活用	③年間到達度評価		備考	
			指標	説明	
	到達目標		B	・9月に満足度調査を実施。演習科目担当教員に授業における実施の協力を依頼。前年度に比して高い回答率を得た。	

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期(半期報告書)・次年度(年間報告書)以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
○多様性(障がいを含む)への配慮 ・施設の改善等は委員会活動では限界があるが、大学・法人への働きかけを継続する。 ・障害のみならず疾病、メンタル・ヘルスへの対応も必要。 ・教職員が必要な知識を身につける機会を設けたい。
○学友会学生との協働 ・学友会活動を活発化するにあたり、学生らの自主的な活動をサポートしていきたい。 ・学修環境の改善等にあたっては、学友会学生との継続的な議論の場をもち、学生の意見・提案を活かしていきたい。
○学生満足度調査の活用 ・在学生の満足度調査とともに卒業生に対する調査を他委員会との共同作成を計画。

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
○学生相談体制の充実 ・2021年度まで学生相談室を5階に設けていたが、学生の利用がほとんどない状態が続いていた。「相談がない」ことは一面では肯定的に評価される一方、個々の教員や保健室に学生からの相談は現実にある。少人数教育を実施している本学においては、専門かつ一元的な相談窓口を設けるより、相談者の必要に応じて、誰にでも相談できる体制を構築し、窓口間の連携をとることを重視すべきである。そこで、学生に向けては、さまざまな相談窓口(対面・オンライン、保健室等)を告知・紹介し、あらゆる相談に教職員が対応できるよう、学生相談室を1階に移動した。また、各種相談の中でも特に学生の健康相談、心的支援の一次窓口の役割は、実質的に保健室がこれを担っている。保健室で対応した相談内容については、守秘義務を逸脱しない範囲において、学生相談室担当教員と定期的に情報を共有し、必要に応じて学外の専門家(臨床心理士)や医療機関のサポートを得るなどして、相談後のフォローを図っている。

IV. 特色のある活動・取組み/新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
○学生の地域・社会貢献活動のサポート ・学生たちが学外で実施する活動をサポートしていく。 ・2021年12月、学生有志が木更津市のオンラインイベント「ツナガルフェス2021」に参画。イベントの企画立案・運営にあたって、教職員がサポート。学生たちの活躍に木更津市からは高い評価を得ることができた。 ・2022年5~7月、木更津市市制施行80周年を記念する「きさらづ未来会議」における議論・ワークショップに学生6名が参加。「きさらづ未来ビジョン」の作成に貢献。記念誌や記念動画の作成にも協力。木更津市長から表彰される。 ・2022年11月3日、木更津市市制施行80周年記念式典に本学学生が3名が登壇(司会1名、プレゼンテーション2名)。市民を代表して「きさらづ未来ビジョン」を発表。 ・その他、地域住民の求めに応じた社会貢献活動も行っている(例:木更津第一小学校『放課後子ども教室』の「見守りサポーター」に参加:2022年7月から継続中)。 ・その他、学友会執行部のメンバーを中心に、木更津消防団学生部の学生など、地域・社会貢献活動に積極的に参加する学生がいる。今後も、学生たちの地域・社会貢献活動をさらに推進する施策も実施していきたい。 ・学生たちの活躍により、自治体から本学に対する期待も高まっていると考える。学生委員会のみならず、他委員会と連携して、学生たちの社会における活躍を支援していきたい。

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	図書館委員会
記入日	2023年4月20日

2022年度 活動報告書

1. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考	
1	項目	定期的な図書選定による蔵書の充実	指標	説明（後期に向けた方針等を含め）	
	到達目標	本学のカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーに沿った必要かつ十分な蔵書の確保と、図書館利用者の所蔵希望を実現する。	A	予算の制約を受けながらも、5月、7月の2回にわたって新刊書リストを精査して選書を実施し、教員・学生からの購入希望図書も可能な限り受入れた。	
③年間到達度評価		③年間到達度評価		備考	
1	項目	蔵書としての必要性がなくなった図書の選定・廃棄	指標	説明	
	到達目標	時の経過、法令の改正等により、図書館の蔵書としての意義がなくなった図書（受験参考書、学習用図書、リサイクル図書等を含む）を選定・廃棄して、随時蔵書内容の刷新を図るとともに、書架スペースを確保する。	A	不要な図書の廃棄、退職した教員が所蔵していた図書のリサイクルを実施した。	
③年間到達度評価		③年間到達度評価		備考	
2	項目	時の経過、法令の改正等により、図書館の蔵書としての意義がなくなった図書（受験参考書、学習用図書、リサイクル図書等を含む）を選定・廃棄して、随時蔵書内容の刷新を図るとともに、書架スペースを確保する。	指標	説明	
	到達目標	時の経過等により、蔵書の意義が失われた図書等を除籍対象リストに選定して廃棄するとともに、退職・転出教員が所蔵していた研究用図書のリサイクルを随時実施したが、引き続き書架スペース確保のため、不要図書の選定・廃棄を継続してゆかなければならない。	B		
③年間到達度評価		③年間到達度評価		備考	
3	項目	クラス別図書館ガイダンスの実施	指標	説明	
	到達目標	アドミッションポリシーを踏まえた高大接続教育、ないし新入生の導入教育を充実させ、図書館を利用した自発的学習の支援を促進させる。	A	プレゼミ I を履修する1年次生を対象にしたガイダンスを実施し、指定図書を検索させる演習等も行わせた。	
③年間到達度評価		③年間到達度評価		備考	
4	項目	蔵書の電子化の継続	指標	説明	
	到達目標	電子ジャーナル、電子ブックが普及増大した社会的状況、本学図書館の書架スペースが狭隘化した現状に対処するため、予算の範囲内で実現可能な蔵書の電子化に順次取り組む。	A	予算面を考慮し、洋雑誌で最新号が電子的に全文閲覧可能なものについて冊子体を停止し、電子雑誌のみに切り替えた。今後、和雑誌・和書も含めて、予算的に可能なものから順次電子化を進めてゆく。	
③年間到達度評価		③年間到達度評価		備考	
5	項目	図書館利用規程の改定	指標	説明	
	到達目標	講義日程や昼夜開講制の現状を反映させた規程の改定、その他字句等を修正して利用規程を整備する。	B	委員会において、休館日、開館時間、館外帯出冊数・期間等の改定すべき条項について指摘が行われた。今後、議決手続を進める。	
③年間到達度評価		③年間到達度評価		備考	
5	項目	講義日程や昼夜開講制の現状を反映させた規程の改定、その他字句等を修正して利用規程を整備する。	指標	説明	
	到達目標	講義日程や昼夜開講制の現状を反映させた規程の改定、その他字句等を修正して利用規程を整備する。	A	「図書館利用規程」のほか、図書館に係る他の諸規程（「図書館利用に関する内規」、「図書館委員会規程」）も含めて、委員会審議を経て改正案が立案され、所定の改正手続を通じて最終的承認を得た。	

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期（半期報告書）・次年度（年間報告書）以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄

- ・(中間) 図書館主催の講演会の開催(読書の啓蒙など)を検討する。
- ・(中間) 図書の廃棄基準の徹底, 図書の除籍・リサイクル, 学外機関への寄贈等を促進させ, 書架スペース不足の改善に引き続き取り組む。
- ・(中間) 電子ジャーナル・電子ブック等の所蔵を漸進させ, 蔵書の電子化を継続的に実施する。
- ・(中間) アクティブラーニング教室との連携を図る。
- ・(中間) コロナの収束次第だが, 対面授業の増加を受けて, 図書館利用者数の増加を図る。
- ・(中間) 機関リポジトリの構築大学が, 国公立大学全体で約8割, 私立大学だけでも74%超に達している現況下(文科省・学術情報基盤実態調査)で, 本学での機関リポジトリの導入可能性を検討する。
- ・(年間) 教員が少ない、ということは、専門分野が重ならない、ということの意味する。退職した教員の残していった書籍を、後輩が活かしていくことが難しい現状がある。
- ・(年間) 図書館予算の削減を受け, 委員による選書候補数の絞込み, 継続雑誌・継続図書の精査と電子化など, 予算の効率的執行を推進する。

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄

- ・(中間) 新入生に対して, ゼミの少人数クラス毎に図書館の利用方法に関するガイダンスを継続的に実施し, 自発的学習の支援を行ってきた。
- ・(中間) 学生の図書館学習の便宜を考慮して, 各科目のシラバスに掲載された教科書・参考書を, 館内の見やすい場所に配架してきた。
- ・(中間) 木更津市立図書館と連携し, 共同企画等により地域貢献にも寄与してきた。
- ・(中間) 教員による学生向け推薦図書(「大学生の間に読んでおきたい本」)を拡充し, 図書館を入った正面に推薦図書をディスプレイした。

IV. 特色のある活動・取組み/新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄

- ・(中間) 蔵書数が収容可能蔵書数の95%近くに達している現況に対処するため, 不要図書の廃棄に加え, 新規に書架の一部増設も実現した。
- ・(中間) リモートワークが定着した昨今の社会情勢に対応し, 教員からの要望も踏まえた研究支援のため, 十数年来実施できなかった学外からの判例データベースへのアクセスを新たに可能にした。

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	スポーツ部運営委員会
記入日	2023年 7月8日

2022年度 活動報告書

1. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考
	項目		指標	説明（後期に向けた方針等を含め）	
1	項目	指導者のより公平な評価	E	【状況】評価方法の取り組みに至っていない 【課題】法人本部の理解をどこまで得られるか	前年度から引き続いての課題
	到達目標	より公平、公正な貢献に応じた評価、報酬制度を整備することで、指導者のモチベーションを上げ、クラブ活動の成績向上につなげる	③年間到達度評価		
			指標	説明	
			E	学園の予算に関係するところなので、環境整備に必要性を訴えてはいるが、進んではない。	
2	項目	UNIVAS活動	B	【状況】UNIVASからの情報、報告をその都度共有している	前年度から引き続いての課題
	到達目標	UNIVAS活動に対してのより一層の協力、貢献	③年間到達度評価		
			指標	説明	
			B	UNIVASからの連絡を関係者全員が共有し、必要に応じてアクションを取ってきた。	
3	項目	スポーツ活動環境の一層の整備	E	【課題】予算の問題、学園全体の財政ともからみ、委員会では危急の課題とするも、踏み込めない。	前年度から引き続いての課題
	到達目標	野球部等での施設改善は喫緊の課題である。学生の安全、満足を高めるためにも早急の対策が望まれる	③年間到達度評価		
			指標	説明	
			E	【課題】予算の問題、学園全体の問題でもあるので、協議、調整が必要	
4	項目	強化指定団体の健全な活動の支援①	B	【状況】計画支援は順調に進行中	前年度から引き続いての課題
	到達目標	事業計画・事業報告書の管理支援	③年間到達度評価		
			指標	説明	
			A	【状況】計画支援は順調に進行中	
5	項目	強化指定団体の健全な活動の支援②	B	【状況】コロナで苦慮している学生に配慮しながら、例年にも増してに各部ごとに徹底して支援している。	前年度から引き続いての課題
	到達目標	会計管理（予算・決算）の管理支援	③年間到達度評価		
			指標	説明	
			A	【状況】予算管理支援は順調に進行中	
6	項目	強化指定団体の健全な活動の支援③	B	【状況】計画支援は順調に進行中	前年度から引き続いての課題
	到達目標	成績不芳者指導支援	③年間到達度評価		
			指標	説明	
			B	【状況】コロナで苦慮している学生に配慮しながら、例年にも増してに各部ごとに徹底して支援している。成績基準も共有して指導徹底に努めている。	
7	項目	強化指定団体の健全な活動の支援④	B	【状況】計画支援は順調に進行中	前年度から引き続いての課題
	到達目標	部活動不参加部員の特待生認定の検討	③年間到達度評価		
			指標	説明	
			B	【状況】これまでに比べ、部活動不参加学生に対し、特待生認定を外すことも辞さない厳しさをもって臨んでいる。	
8	項目	強化指定団体の健全な活動の支援⑤	B	【状況】計画支援は順調に進行中	前年度から引き続いての課題
	到達目標	スポーツ特待生資質条件・適正規模の検討	③年間到達度評価		
			指標	説明	
			B	【課題】定員確保の条件とも関係する	

委員会・部局名	スポーツ部運営委員会
記入日	2023年 7月8日

2022年度 活動報告書

1. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考
	項目		指標	説明	
9	項目	強化指定団体の健全な活動の支援⑥	B	【状況】計画支援は順調に進行中	前年度から引き続いての課題
			③年間到達度評価		
	到達目標	指導者の確保	指標	説明	備考
			E	【課題】学園の職員定数、予算の問題あり。	
10	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考
	項目	強化指定団体の健全な活動の支援⑦	B	【状況】計画支援は順調に進行中	前年度から引き続いての課題
			③年間到達度評価		
	到達目標	適正な部員数の検討	指標	説明	備考
E			【状況】定員確保、活動環境改善とリンクするので検討の段階に至らず。		
11	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考
	項目	強化指定団体の健全な活動の支援⑧	B	【状況】計画支援は順調に進行中	前年度から引き続いての課題
			③年間到達度評価		
	到達目標	活動環境（施設）の改善	指標	説明	備考
E			【状況】活発な議論が続いているが、昨今のインフレ激化で見通しは暗い。 【課題】予算の問題、学園全体の問題でもあるので、協議、調整が必要。		

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期(半期報告書)・次年度(年間報告書)以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
特記事項なし

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
特記事項なし

IV. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
特記事項なし

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	教職課程委員会
記入日	2023年10月2日

2022年度 活動報告書

I. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考
	項目		指標	説明（後期に向けた方針等を含め）	
1	項目	教育職員免許法施行規則改正に伴う教職課程の「自己点検・評価」について	C	①教職課程委員会規程の業務内容として「自己点検・評価」を盛り込むことを検討。 ②報告書を作成中。1月に素案完成予定。	
	到達目標	①教職課程に関わる体制整備の点検 ②教職課程の「自己点検・評価報告書」の作成（年度末公開）	A	教職課程の「自己点検・評価報告書」を完成させ、年度末に本学HPにて公開した。あわせて全国私立大学教職課程協会に送付し、基準を満たすものとして修了証の発行を受けた。	
2	項目	教育職員免許法施行規則改正に伴うICT関連項目への対応	B	①既存科目「教育方法・技術論」を改編して「教育方法・ICT活用論」として新規項目を組み込む（2022年度末に文科省へ変更届を提出）。 ②担当者に周知済み。来年度シラバスに盛り込む。	
	到達目標	①「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の必修化（新設、1単位以上） ②「指導法科目」「教職実践演習」の内容に「情報通信技術の活用」を盛り込む	A	教職科目「教育方法・ICT活用論」の開設について、文科省に担当教員（小松）の業績とともに変更届を提出し受理された。2023年度より指導法科目等にもICTの活用を盛り込むこととした。	
3	項目	教職課程履修者のICT活用能力の向上	B	①前期・後期の教職課程ガイダンスで実施済み。 ②「教育方法・技術論」でICT機器を活用した教材作成・発表場面を昨年度よりも増やした。	
	到達目標	①ガイダンスにおいて学生にICT機器を積極的に使用させる ②「指導法科目」「教育方法・技術論」などの授業における活用方法の指導	B	ガイダンス等でICT機器利用は普及してきたが、スマホにて参加する学生も少なくない。教職課程のICT化への対応にはスマホでは不十分なため、ノートPCやタブレットの所持を一層推進していきたい。	
4	項目	本学で取得できない教員免許を希望する履修者への支援強化（中高保健体育、小学校、特別支援学校）	B	①継続的な取り組みがなされている。 ②キャリア科目「教員採用試験対策講座」で小学校も指導可能な担当教員を招聘。	
	到達目標	①星槎大学との連携を強化し、学生指導に関する情報を共有する ②保健体育や小学校などの教員採用試験対策の実施方法を検討する	B	星槎大学と例年通りの連携はできているが、情報共有を深めるには至っていない。また、保健体育や小学校の教員採用試験対策について、組織的対応は十分でない。	
5	項目	教職課程の広報活動の積極化について	B	①実施済み（2022年度用資料を配布）。 ②随時情報発信を行っている。	
	到達目標	①教職課程を紹介するパンフレットを作成する（オープンキャンパスで配布・説明） ②大学HPにて教職課程に関わる情報を積極的に発信する	B	本学HPで新着情報の継続的な発信はできているが、HPの大幅な改定には至らなかった。	
6	項目	教職課程同窓組織の立ち上げ準備	E	優先順位の高い項目（特に年度末までに対応が必要な①②）遂行のため、現段階では今年度未着手。年度末にオンラインイベントを実施したい。	
	到達目標	①既存の「教職OB・OGグループLINE」を基盤として教職課程同窓組織の立ち上げを準備	E	現状のグループLINEの運用にとどまり、同窓組織の発足には至らなかった。	

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期（半期報告書）・次年度（年間報告書）以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
①ICT化への対応推進 ・教職課程科目におけるICT機器の一層の利用を図りたい。 ・学校現場では「デジタル教科書」の普及が進みつつあり、2023年度は授業内で学生が触れる機会を設けたい。

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
①教員採用試験合格実績 ・2022年度の教員免許状取得は9名であり、千葉県中高社会で1名の現役合格者を輩出することができた。 ・本学の場合、講師登録から教職のキャリアをスタートする者が多く、数年間の現場勤務を経て正規採用に至るケースが見られる。2022年度の既卒者の合格実績は、千葉県中高社会2名、東京都中学社会1名、千葉県小学校3名である。

IV. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
①基礎学力の向上 ・本学教職課程の特色のひとつであり、4年間の「清和大学社会科検定」を通して、社会科の基礎学力の確認から教員採用試験対策まで行っている。
②実践的指導力の向上 ・2年次からの継続的な学校現場でのインターンシップ活動に参加することで教員や児童生徒との関わりを経験的に学んでいる。 ・3年次末に実施する「教育実習事前指導」にて教育実習予定者全員に「50分模擬授業」の実施を求め、クリアできるまで指導している。

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	キャリアサポート委員会
記入日	2023年10月1日

2022年度 活動報告書

I. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考
	項目		指標	説明（後期に向けた方針等を含め）	
1	項目	保護者対象説明会の実施	A	準備中	
	到達目標	対面での実施	A	12月に実施	
2	項目	就職出陣式の実施	A	4月に対面で実施	
	到達目標	対面での実施	A	次年度の新4年生向けの開催に向けて、準備中	
3	項目	「キャリアセンター開講授業科目」の見直し	A	検討中	
	到達目標	より、実践的、効果的な科目構成の実現	A	次年度、行政書士・司法書士対策講座の拡充を実施	
4	項目	入試広報業務との連携	B	より頻度を上げる必要がある。	
	到達目標	大学HP、SNS、および、OC参加者・高校等への配布用ビラ等を通じた、より高校生の目を惹くような、広報活動の実施	B	本学キャリアセンターの活動について、さらに、高校生に関心を持ってもらえるような広報活動が必要	
5	項目				
	到達目標				
6	項目				
	到達目標				
7	項目				
	到達目標				

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

Ⅱ. 後期(半期報告書)・次年度(年間報告書)以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄

- ①引き続き、公務員試験について、希望者の一人でも多くの合格者を出すことを目指す。
- ②引き続き、民間希望者についても、一人でも多く、本人希望の進路実現を目指す。

Ⅲ. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄

- ①1年次の段階から、充実した「公務員試験対策講座」を提供することで、継続して、多数の公務員合格者を出すことができています。
- ②1・2年次「キャリア養成講座Ⅰ・Ⅱ」、3年次「キャリアサポート講座」、および、進路指導室における就職活動の学生一人一人への個別的なサポート等により、継続して、今年度も、極めて高い「就職率」を維持できている。

Ⅳ. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄

引き続き検討中。

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	S D委員会
記入日	2023年6月5日

2022年度 活動報告書

1. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考
	項目		指標	説明（後期に向けた方針等を含め）	
1	項目	チャレンジシートの実施	A	本年度から新たに導入された項目であり、別添「令和4年度チャレンジシート作成マニュアル」のスケジュール通り実施している。なお、後期においてもスケジュール通り実施予定である。	
	到達目標	事務職員の職務及び能力開発に関する課題・目標や達成手段をチャレンジシートにより明確化することで、事務職員と管理職のコミュニケーションの向上、さらなる育成を図る。	A	事務職員は、各々チャレンジシートにより、①申告する目標、目標達成に向けての具体的手立てを立て、目標達成に向けての取り組みを開始し、中間期において②進捗状況の確認を行い、中間的な達成状況を確認した。そして年度末において最終申告③最終申告、本年度の成果と今後の課題の振り返りを行った。 当初の目的である「事務職員の職務及び能力開発に関する課題・目標や達成手段をチャレンジシートにより明確化することで、事務職員と管理職のコミュニケーションの向上、さらなる育成を図る。」ことを達成できた。	
2	項目	本学主催「SD研修会」の実施	A	現在計画中にあり、学年末試験終了後に実施予定である。	
	到達目標	（起案・決裁前につき、予定案を記します。） 情報リテラシー能力の向上を図り、業務に活用する。	A	1. 開催日時 令和5年2月10日（金）15:00～16:30 2. 開催場所 オンライン（Zoom） 3. 出席状況 対象者 清和大学専任教員24人、清和大学短期大学部専任教員15人、事務職員28人、計67人 出席者 清和大学専任教員24人、清和大学短期大学部専任教員15人、事務職員28人、計67人 出席率 100% 4. 実施状況 演題：情報のセキュリティとリテラシー 内容：(1)情報のセキュリティと対策 (2)情報リテラシーと業務の効率化 講師：清和大学 教授・情報センターセンター長 松岡 東香 氏 補助 情報センター副センター長 高橋 利光 氏 補助 情報センター センター員 永島 悠一 氏 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、研修会講演をオンライン（Zoom）方式により実施した。 実施後直ちにグーグル共有ドライブに研修会講演で使用した動画を掲載することにより、当日、授業実施の者・出張の者等も後日受講することが可能となり、結果、出席対象者全員が受講することができた。	
3	項目	外部団体主催「研修会」への参加	—	今年度前期における外部団体主催「研修会」への参加状況は、10月に調査、とりまとめ予定のため、現時点での指標は空欄とさせていただきます。	
	到達目標	学外諸団体が主催する研修会へ積極的に参加することにより、先進的な事例等を学び、業務に活用する。	A	今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、ほとんどの研修会がオンライン（Zoom）で実施された。 学外団体主催研修会に延べ41件参加し、各部署における専門的知識及び職能の習得ができた。	

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期(半期報告書)・次年度(年間報告書)以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
○ 次年度の活動予定 職員の資質・能力向上のため、次の活動を行う予定である。 ① OJT(チャレンジシートを含む。) ② 本学主催「職員研修会」の実施 ③ 学外団体主催「研修会」への参加

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄

IV. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	F D委員会
記入日	2023年5月31日

2022年度 活動報告書

I. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考
	項目		指標	説明（後期に向けた方針等を含め）	
1	項目	《IR》授業改善のためのアンケート	B	前期開講科目について滞りなく実施済み。後期中に公表資料等を作成予定。	備考
	到達目標	前期・後期とも全科目について実施し、集計結果等を速やかに公表。	C	アンケート自体は予定通り実施済み。公表資料等の作成が予定よりも遅れている。	
		③年間到達度評価		備考	
		指標	説明		
2	項目	オープン授業	E	後期中に実施予定のため、前期中は大まかなスケジュールの確認に留まった。	備考
	到達目標	年度内に実施し、F D研修会において情報共有の機会を設ける。	B	予定通り実施した。参観総数の増加、オープン授業を契機とした改善計画の立案等が課題である。	
		③年間到達度評価		備考	
		指標	説明		
3	項目	F D研修会	B	前期授業期間中に2回開催。後期も同程度（または前期比1回増）の開催を予定。上述のオープン授業を題材とする研修会を非常勤講師も対象とする方向で調整。	備考
	到達目標	前期・後期とも授業期間中に定期的を実施する。テーマにより非常勤講師にも参加を依頼し、開講科目全体の授業改善に繋げる。	B	オープン授業、授業アンケート実施結果を題材とした研修会は実施したが、やや新規性に乏しかった。	
		③年間到達度評価		備考	
		指標	説明		
4	項目	認証評価受審に向けた対応	D	執筆担当者（委員長）の交代があったため、前期中は内容の精査に留まった。	備考
	到達目標	認証評価に係る自己点検評価報告書二次案原稿の完成	B	期限までに二次案原稿を作成し提出した。	
		③年間到達度評価		備考	
		指標	説明		
5	項目				備考
	到達目標				
		③年間到達度評価		備考	
		指標	説明		
6	項目				備考
	到達目標				
		③年間到達度評価		備考	
		指標	説明		
7	項目				備考
	到達目標				
		③年間到達度評価		備考	
		指標	説明		

※下線部は中期計画との関連性が特に高い項目、《IR》はIR推進に係る項目。

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期（半期報告書）・次年度（年間報告書）以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
(中間) 自己点検評価報告書二次案作成に関する作業が委員長交代の影響で遅れているため、後期はこれに優先的に取り組む。ただし、執筆作業は基本的に委員長が行い、委員会では加除修正が必要となる箇所の有無などについての意見聴取を中心とする。 (年間) 蓄積データの有効な活用方策を検討する。

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
有償アンケートシステム採用後、全開講科目で授業改善のためのアンケートを実施しており、今後もこれを継続していく。また、他大学の例も参考に、Webサイトでの対外的な公表用資料も作成する。

IV. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
(中間) 特記事項無し。ただし、従来より実施している「授業実践報告」の応用として「授業改善実践報告(仮)」を検討中である。 (年間) オープン授業を授業改善の契機とし易くすべく、参観コメントと被参観者からの応答を記名形式の資料に整え、全教職員で共有することにより本活動の双方向性を確保した。

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	国際交流委員会
記入日	2023年6月26日

2022年度 活動報告書

1. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考
	項目		指標	説明（後期に向けた方針等を含め）	
1	項目	オンライン留学事業の推進	A	本年度はオンライン留学を中心にやっていく方向。12名の応募者を得て、そのうち8人を選抜した。	オンライン留学とはカナダの語学学校 ILACの授業を、他国の学生と一緒にオンラインで受講するものである。
	到達目標	委員会として様々な準備を整え5月に募集をかけ、5月の一ヶ月を中心に告知、学生に呼びかけを行うと共に、学内への告知、理解と協力を求める活動を行う。	A	計画は達成できた。	昨年度に引き続いて実施
2	項目	学内的にオンライン留学の取組を広く学生に伝え、その意義を説明する。	A	予想より多くの学生が応募、興味を示した学生も多かった。	このオンライン留学はコロナ禍で正規の留学が不可能になったことから、企画された。大学の国際化への真剣な取り組みの一つであり、清和大学の国際化への真剣な取り組みを伝えたい。
	到達目標	各委員が学生に声をかけ、周囲にも協力を求め、オンライン留学を学内に広く周知すること。	A	学生と直接のコミュニケーションができ、彼女らの国際キャリアへの希望等を聞いたことは、今後の大学の国際化に向けて有意義だった。	5月、6月は毎日のように、学生に呼びかけを行った。
3	項目	オンライン留学を正規のプログラム化する	A	本プログラムは正式の単位付与科目として認定された。	単位授与プログラムになると、学生への魅力が増すと考えられる
	到達目標	大学より正式の単位認定プログラムとしての認可を受けること。	A	来期からプログラム修了者に単位授与の予定	
4	項目	プログラムのレビュー	A	報告会を開催し、成功裏に終わった。	昨年度も実施
	到達目標	オンライン留学プログラム参加者の報告会を開催し、プログラム参加の感想等を聞き、来年度以降のプログラムをよりよいものにする。	A	報告会は有意義な意見、経験の共有ができ、運営側にも参考となる事例が多くあった	昨年度も実施
5	項目	大学のホームページに今回のオンライン留学参加者の体験談を写真とともに掲載する	A	予定通り、順調に進んだ。	昨年度の書き換えであるが、入試センター長沖埜氏の協力を頂いた
	到達目標	昨年度の報告はすでに載せてあり、今年度のものに書き換える作業。	A	キャビンアテンダントとして内定を得た学生に特別インタビューを行い、HPに掲載出来たことは学内外へのPRとなった。	大倉副委員長を中心に進めた。
6	項目	来年度に向けての国際交流委員会の活動について考える	C	所定のルーティンをこなすだけで精一杯であった	前期はスケジュールが詰まっており、物理的に難しかった
	到達目標	来年は前期に予定しているオンライン留学の他に、後期に別のプログラムを実施する可能性を議論する。	C	今期これをやる余裕がなかったのは、予定になかった、学園祭での展示、OLプログラムの事務作業、諸打ち合わせなどで多忙だったため。	来期のオンライン留学に向けての打ち合わせ、ルーティンが多く、これ以外のプロジェクトについて議論する余裕がなかった。
7	項目	本学学園祭でのブース設置、活動内容の展示	B	11月になって急に命じられたため、準備等はできなかった	
	到達目標	学園祭において、国際交流委員会の活動を来場者にご覧いただき、本学のPRにつなげる。	B	無事ブースを設置、来場者こそ少なかったが、しっかり対応はできた。ただ、準備期間が短く理想の展示とはならず。	
8	項目				
	到達目標				

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期(半期報告書)・次年度(年間報告書)以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
特記事項なし

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
特記事項なし

IV. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
特記事項なし

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	自己点検・評価委員会
記入日	2023年7月25日

2022年度 活動報告書

1. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考
	項目		指標	説明（後期に向けた方針等を含め）	
1	項目	令和6年・機関別認証評価受審に向けた、認証評価報告書作成に関する役割分担の具体化	A	前年度の課題として残されていた執筆推進方法の具体化・整備として、執筆担当者の設定を行う（前期内に達成）。	学長より、以前より指示がなされている執筆担当者のさらなる具体化が図られたことを基に、本委員会では「執筆担当者」を明確化し、執筆担当者による報告書作成取りまとめの体制を整えた。
	到達目標	最終的に、令和6年度受審に向けた認証評価報告書(最終稿)を整えるための体制とするが、本年度の到達目標は2022年12月締切りの認証評価報告書(第2次素案)の取りまとめとする。	A	左記到達目標は概ね達成した。	
2	項目	清和大学中期計画・PDCAサイクル・内部質保証理解に関する継続的な情報共有	A	自己点検・評価体制の継続的な推進のため、中期計画・PDCAサイクル・内部質保証理解について、とくに本委員会内でその理解を深める。	学長より、本学5月教授会にて、継続的にアップデートされている清和大学中期計画が教職員全体に示された。
	到達目標	令和6年受審のみならず、その先も見据え、本学の自己点検・評価体制をより盤石なものとすることを究極的な目標としている。本年度の到達目標は、本学中期計画を礎としたPDCAサイクル体制を継続的に洗練化させ、内部質保証を果たしているかの継続的な確認をすることである。	A	左記到達目標は概ね達成した。	
3	項目	自己点検・評価委員会内での情報共有体制の整備・推進	A	自己点検・評価委員会共有ドライブ内に、本学各部局の自己点検・評価のための資料や、認証評価報告書の作成に資する資料等の格納を漸次行う。（現段階で継続的に格納できている状況にあり、委員会内部での情報共有をはかることができている。）	
	到達目標	自己点検・評価委員会内での情報共有体制の整備・推進のため、委員会内部で関連資料を共有できる体制を整える。委員会で使用している共有ドライブ内に、委員長の判断により漸次必要と思われる情報を格納し、適宜、委員・幹事にその旨を伝達することにより、随時委員会内部で必要関連資料を（ある程度まとまった形で）閲覧・共有可能な体制とする。（体制整備は現段階で達成したと考えられるので、今後はその洗練化を予定している。）	A	左記到達目標は概ね達成した。	
4	項目	学内諸規定の確認・点検	E	本学の諸規定の内容が本学の現状に合っているかの継続的な確認・点検を行う。今年度は、後期以降にそれを行うことを予定している。	
	到達目標	本学の諸規定の内容が本学の現状に合っているかについて、各諸規定を丁寧に確認する機会をもつ。	C	学内諸規定について随時点検と対応を行うに留まった。	
5	項目	「令和4年度 評価充実協議会」(日本高等教育評価機構主催)の研修・検討	A	今年度評議会の受講内容を委員・幹事各位で共有する機会をもつ。毎年このような機会を委員会内でもっているが、今年度は9月の定例会で行う予定。（9月に実施済み）	
	到達目標	令和6年度受審に向け、令和4年度の認証評価受審に関する最新情報の獲得と、当該諸情報の委員会内部での共有をはかる。（9月委員会で実施済み）	A	左記到達目標は概ね達成した。	
6	項目	「活動報告書」（含：年間計画）体制の継続的な運用	A	本学の組織的な自己点検・評価体制の一環として、昨年度より「活動報告書」体制を整えたが、今年度以降もそれを有効なカタチで継続的に運用する。	2021年度の年間活動報告をまとめた資料を、自己点検・評価委員会内で共有することにより(共有ドライブ内への格納により委員・幹事がいつでも閲覧できる体制としている)、本学各部局の活動を横断的に確認することができる体制にもしている。
	到達目標	本学の組織的な自己点検・評価体制の一環として、該当年度に関する年2回に亘る活動報告書作成・提出体制を継続的に運用する(半期報告〔含：年間計画〕、年間報告〔ただし次年度にまたがる〕)。	A	左記到達目標は概ね達成した。	
7	項目				
	到達目標				
8	項目				
	到達目標				

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期（半期報告書）・次年度（年間報告書）以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
(以下の事項は単年度に限られず継続的に行うべき取組みであるので、基本的に2021年度 から引き継いでいる。) ・ 自己点検報告書第2次素案（さらには令和6年提出用報告書完成版）の作成に向けた進捗状況の確認や意見交換を随時行う。 ・ 令和6年受審に向け、体制等の現状把握や課題（不足分等）の抽出を継続的に行う。 ・ PDCAサイクルの組織的な運用を進化させる。 ・ PDCAサイクルに基づく組織的体制を具体的に推進するために、学内の横断的な対応がいかに可能であるか（体制整備のあり方を含め）を検討(とくに基準6「内部質保証」の取組みとして)。 ・ 日本高等教育評価機構の情報提供を継続的に把握し、委員会内で共有する。 ・ 清和大学における地域交流方法の検討。

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
・ 本学の組織的な自己点検・評価体制の一環として、該当年度に関する年2回の「活動報告書」の作成・提出体制を継続的に運用している。

IV. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	法学会運営委員会
記入日	2023年4月30日

2022年度 活動報告書

I. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

No.	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考
	項目		指標	説明（後期に向けた方針等を含め）	
1	項目	紀要刊行	D	刊行に向けた投稿募集告知のみ	
	到達目標	『清和法学研究』2冊 『清和研究論集』1冊	③年間到達度評価		
			D	『研究論集』2023年3月付にて刊行（9月）	
2	項目	研究報告会開催	D	再開可能性を検討中	
	到達目標	年間 6回程度	③年間到達度評価		
			E	未開催	
3	項目				
	到達目標		③年間到達度評価		
4	項目				
	到達目標		③年間到達度評価		
5	項目				
	到達目標		③年間到達度評価		
6	項目				
	到達目標		③年間到達度評価		
7	項目				
	到達目標		③年間到達度評価		

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期（半期報告書）・次年度（年間報告書）以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
社会情勢の好転を待って、教員各自の研究活動とその成果の評価が、教育及び学事活動への関与または貢献と少なくとも同等以上の比重で行われる「大学文化」を涵養すべく、少なくとも従前の、活動の再開をはかる。

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
当委員会の活動成果は、専任教員の研究活動の活性に従属し、さらには大学の総体的運営の「反射的效果」とでもいうべき受動的な性格を帯びていると思料する。この立場から主要任務の遂行において、各教員の個性に応じて奨励や助言を行ってきた。

IV. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
当面上記IIに集中することが肝要であろう。

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	入試広報運営委員会
記入日	2023年6月1日

2022年度 活動報告書

I. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考
	項目		指標	説明（後期に向けた方針等を含め）	
1	項目	認知拡大のために、WEB広告やホームページ等の改善	B	ホームページのトップページをリニューアルし、受験生が検索しやすいように変更した。また、Instagram、Twitter、FacebookなどのSNS運用を始め、学生や地元木更津の様子をできるだけアピールするようにした。	備考
	到達目標	ホームページやSNSに大学や地元木更津の状況を掲載し、それを閲覧してもらうことで、本学の学びや学生生活環境を伝えることで認知度を高める。	B	ホームページのトップページをリニューアルやSNS運用により、認知度は拡大している。Instagram、Twitterのフォロワー数が増加していることからわかる。	
③年間到達度評価			備考		
		指標	説明		
2	項目	オープンキャンパス等への参加者数増加と開催内容の工夫	B	高3（受験）対象に、過去3年間に資料請求や相談会に参加した方にDMを送った。また、本学での学びを伝えるために、模擬授業や公務員対策講座、学生（卒業生）の体験談を充実するようにした。コロナの影響でリピーター率が低いため、1回で完結するような内容にした。	備考
	到達目標	オープンキャンパスを通じて、本学の教育内容を伝え、受験へと繋げる。	C	過去の参加状況と比較すると、近年で一番参加者数が少ない。特に併設校からの参加者が少ないため、開催内容の改善と告知方法の改善が必要である。	
③年間到達度評価			備考		
		指標	説明		
3	項目	志願者数を増加させるための施策	C	WEB広告の配信方法・種類を増やすだけでなく、進学サイトへの参画、記事タイアップ広告を実施し、認知度を高める工夫をした。新規に指定校を認定し、高校訪問にて本校の特徴や入試制度に関して案内をした。昨年よりも高校への出張授業講座を充実させた。	備考
	到達目標	WEB広告等を活用して本学の魅力や知名度を高める。	C	WEB広告への反応状況はよく、本学ホームページの閲覧状況はよいが、オープンキャンパスへの参加、資料請求にはあまり反映されなかった。また、指定校推薦への志願者数も昨年よりも少なくなった。	
③年間到達度評価			備考		
		指標	説明		
4	項目	外部業者が開催する説明会等への積極的参加	B	千葉県内を中心に、高校を会場にした大学説明会・系統別説明会に参加をした（30校程度）	備考
	到達目標	高校生や教員に本学の魅力を伝える。	B	千葉県内および東京23区内を中心に、高校を会場にした大学説明会・系統別説明会に参加をした（年間50校程度）	
③年間到達度評価			備考		
		指標	説明		
5	項目	併設高校、近隣連携高校との連携深化	C	併設高校である木更津総合高校では、2・3年生に対して説明会を実施した。近隣高校に対して、出張講演可能な講座を案内するが、講演依頼はなかった。	備考
	到達目標	提携協定の具体的な内容を協議し、実行する。	C	併設高校である木更津総合高校では、2年生に対して複数分野説明を行う。また、市原中央高校でも1・2年生対象に法学系分野の説明会を実施した。近隣高校からの直接依頼はないが、業者主催の近隣高校で開催される分野別説明会には積極的に参加をした。	
③年間到達度評価			備考		
		指標	説明		
6	項目	学生募集のIT化の推進	C	大学案内や募集要項については、本学ホームページ上から閲覧が可能である。高等学校が作成する推薦書は、データファイルをダウンロードできるようにした。	備考
	到達目標	学生募集のweb活用を推進する。	C	web出願の実施検討をしたが、費用面や事務処理量増加等の問題から実施することを見送った。	
③年間到達度評価			備考		
		指標	説明		
7	項目	学外ニーズ等の取り込み	B	高校訪問や説明会参加により、ニーズの変化等を確認した。また、オープンキャンパス参加者アンケートの集計も行い、昨年度との比較を行った。	備考
	到達目標	近隣高等学校、高校生の動向変化を認識する。	B	入試の志願状況や業者から得た入試動向変化などを参考に、来年度の一般選抜入試を一部変更した。また、「情報と法コース」への志願数が少ないため、コースの方向性について委員会内で、意見交換をした。	
③年間到達度評価			備考		
		指標	説明		
8	項目				備考
	到達目標				
③年間到達度評価			備考		
		指標	説明		

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期（半期報告書）・次年度（年間報告書）以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
(年間) 大学案内等の広報物の制作時期を早め、早期に受験生や高校にアピールができるようにする。 4 月期に高校訪問をし、本学の実績や入試制度について案内をする。

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
(年間) 毎年、志願状況や入試結果をもとに、入試日程や入試制度の検討を行っている。2 月・3 月に実施する入学試験への志願者数が少ないため、総合型選抜・一般選抜について検討し、日程・試験科目の変更を行った。

IV. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	情報システム委員会
記入日	2023年 3月 31日

2022年度 活動報告書

I. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考
	項目		指標	説明（後期に向けた方針等を含め）	
1	項目	1F 1109教室、2F 1201教室・1202教室・1203教室・1210教室 AV機器更改、全教室AV機器総点検・修繕	A	・機器選定・配線整備など詳細に業者へ指示。 ・コンペ方式導入により機器更新費用の圧縮。	当初の業者提案による機器更改費用約500万円を半額以下の約200万円程度に縮減（AV機器一部の更改と教室内AV機器総点検と年間点検・修繕費含む）。
	到達目標	・老朽化に伴う授業環境の点検・修繕 ・業者提案構成の精査と見直しの実施 ・更改後、教職員への操作レクチャーの実施	A	・効果的な事前周知により全学トラブルなく機器の修繕と更改済み。	全11台の点検を完了。プロジェクターを5台の更改済み。
2	項目	2F全教室 Wifi環境整備とシステム管理強化	A	・2F全教室にCiscoAPを設置。短大含めCiscoAPを一元管理し、設定変更、障害情報を含め、ブラウザ上で簡単に確認できるシステムを構築。	当初の業者提案による機器更新費用約500万円を本学情報センターがAPをメーカーから直接購入・設定構築したため、約40万円程度に縮減。
	到達目標	・2F全教室 Wifi設定・設置に伴う授業環境整備・強化 ・Wifi設定一元管理の体制構築（AP設定など）	A	・事前周知含めトラブルなくシステム更新を完了。 ・Wifi環境の改善により学内ユーザの利便性向上。	プロキシサーバを廃止。
3	項目	構内NWの内的環境および構外回線の調査と改善案の作成	A	・Wifi環境整備に伴い学生のNW利用率向上を見込み、NW回線の調査と利用状況、アクセスポイント（AP）へのセッション数の調査を実施し、改善案を策定中。	NW調査を業者に依頼せず本学情報センターにて実施して経費を縮減。NWのトラフィックを確認し調査を実施。
	到達目標	・学内LAN NWスピード調査 ・Wifi利用状況・セッション数の調査 ・外部回線契約状況把握・改善点の洗い出し	B	・調査で学生の利用増加によるAPへの負荷の増加が判明。Server上でIPセグメントを増加し、NWの負荷分散を検討中。 ・外回線の増強（SINETの利用）を検討中。	外部回線の通信速度を向上させ、NWの更なる高速化を計画。
4	項目	NW利用に関するユーザ向け各種マニュアル整備	A	・NWに関するマニュアルを更新・作成。 ・職員の利便性を向上。	
	到達目標	・Wifi接続・Zoom使用方法・PCログイン方法などのマニュアル整備 ・職員向けのメーリングリスト作成・レクチャー実施	B	・操作マニュアルは事前テストを実施、展開済み。 ・情報運用マニュアルについては整備中。	マニュアルを作成し配布。講習会は次年度の実施に向け準備中。
5	項目	PC教室（1205・1206教室）PC/AV機器環境整備	A	・AV機器・PCと連動するマイクを新規設置。 ・セキュリティ確保のPC端末を整備。	マイク新規設置は、業者に依頼せず、本学情報センターがメーカーから直接購入・設定。マイクチューナーを購入せず2万円程度の安価にて設置完了。
	到達目標	・マイク設備の新規設置 ・定期的なWindowsUpdate・メンテナンス ・AV機器不具合調整	A	・PC端末更新およびアップデート作業完了。 ・定期的なAV機器総点検を実施。	全78台の端末について作業完了。 1206教室のPC端末は毎月WindowsUpdateを実施。
6	項目	サーバの冗長化（1部Server Backup体制の構築[NAS取付]）	A	・ADサーバの再Backupを取付・安全を確保。	
	到達目標	・新ServerはRAID構成による現行のBackup体制に加え、別途NASを取付け再Backupシステムを構築し、データの紛失を防止。	A	・新Serverは仮想化（HyperV）仕様とし物理Serverを削減する予定。	
7	項目	図書館 IT機器（PC/プリンター）更新・定期点検	A	・プリンター2台の老朽化に伴い新規交換。 ・PC端末のセキュリティ設定を完了。	セキュリティ対策として、環境復元ソフトを導入し運用中。
	到達目標	・学生使用プリンターの新規交換 ・学生使用PCの定期メンテナンス	A	・PC端末更新およびアップデート作業完了。	図書館入口プリンターはWifi接続環境を構築し、スマートフォンからの印刷を可能にするなど、学生の利用ニーズに対応。
8	項目	大学WebサイトTOPページ更改およびSNS（Twitter・Instagram）サイトの新規構築・運用	A	・大学TOPページ更改完了。 ・SNSサイト新規構築。	SNSサイトを情報センターにて新規構築。更新頻度も向上させたことにより、フォロワー・イイねの数の増加傾向を確認。
	到達目標	・大学HP TOPページ更改調整 ・学内活動・広報を目的としたSNSサイト新規構築・運用	A	・入試広報センターと連携し問題なく運用中。 ・SNSサイトのフォロワー数は倍増している。	SNSサイトのフォロワー数（2023年3月時点） Twitterフォロワー数：888 Instagramフォロワー数：347

委員会・部局名	情報システム委員会
記入日	2023年 3月 31日

2022年度 活動報告書

I. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考
	項目		指標	説明	
9	項目	産学連携研究 顔認証システムの教育活用実証実験①（出席管理）	A	・情報の講義にて運用実験を計画・試用。	次年度8月の私立大学情報教育協会「2023年度ICT利用による教育改善研究発表会」にて研究成果を全国へ配信予定。
	到達目標	・顔認証システムによる授業時間の有効利用と教職員の負担軽減を念頭に、出席管理への転用に関する実証実験を試みる。	B	・複数回、情報の講義にて運用実験を行い顔認証システムの精度を確認する。	
			③年間到達度評価		備考
			指標	説明	
			A	・複数回、情報の講義にて運用実験を行い顔認証システムの精度を確認する。	次年度も継続して運用を行い、出席管理画面も構築する。
10	項目	真武殿（柔道場・剣道場）Wifi環境構築	A	・経費節減のため、業者に依頼せず情報センターにて構築可能か計画・策定。	
	到達目標	・真武殿Wifi環境の構築	A	・真武殿Wifi環境の構築完了。	
			③年間到達度評価		備考
			指標	説明	
			A	・真武殿Wifi環境の構築完了。	教員より学生指導にWifi環境が必要と要望があり構築。Wifi中継器を購入し情報センターにて構築完了。
11	項目	出席管理システム用 L2Switch1台 新規交換	A	・経費節減のため、L2Switchの購入メーカーを選定。	複数社から見積りを取得し策定を完了。
	到達目標	・L2Switchの選定と新規交換	A	・L2Switch新規交換完了。	
			③年間到達度評価		備考
			指標	説明	
			A	・L2Switch新規交換完了。	NW保守業者にて交換を行い運用状況も確認完了。
12	項目	1205教室・1206教室・事務局PCのGoogleDriveアップデート	A	・1205教室の全PCにGoogleDriveバージョンアップを適用。	
	到達目標	・GoogleDriveバージョンアップの適用	A	・1206教室・事務局設置PCにGoogleDriveバージョンアップを適用。	
			③年間到達度評価		備考
			指標	説明	
			A	・1206教室・事務局設置PCにGoogleDriveバージョンアップを適用。	
13	項目	大学祭時のIT活用サポート	—	(中間報告後の追加項目)	
	到達目標	・学生・教職員からのIT活用依頼の対応	A	・SNSサイトでの学祭告知対応。 ・学祭専用WEBページ、デジタルパンフレットの作成対応。	
			③年間到達度評価		備考
			指標	説明	
			A	・SNSサイトでの学祭告知対応。 ・学祭専用WEBページ、デジタルパンフレットの作成対応。	
14	項目	学生WEBサークル活動支援	—	(中間報告後の追加項目)	
	到達目標	・学生WEBサークルのIT支援（PC設置・操作レクチャー）の実施	A	・活動部屋3Fアクティブラーニング室にPC1台を設置。 ・貸出用ノートPC5台の整備と操作レクチャーを実施。 ・SNSサイトの運用レクチャーを実施。	
			③年間到達度評価		備考
			指標	説明	
			A	・活動部屋3Fアクティブラーニング室にPC1台を設置。 ・貸出用ノートPC5台の整備と操作レクチャーを実施。 ・SNSサイトの運用レクチャーを実施。	
15	項目	学生貸出用機器保守メンテナンス	—	(中間報告後の追加項目)	
	到達目標	・学生貸出用機器（iPad5台）のOSアップデート等メンテナンス	A	・IOSのバージョンアップを実施。頻繁にバージョンアップがあったため都度、実施し、セキュリティを確保。	
			③年間到達度評価		備考
			指標	説明	
			A	・IOSのバージョンアップを実施。頻繁にバージョンアップがあったため都度、実施し、セキュリティを確保。	
16	項目	校舎3F・4F・5F Wifi設備構築	—	(中間報告後の追加項目)	
	到達目標	・Wifi環境未整備フロア（3F・4F・5F）にAPを設置し、Wifi利用エリアの拡張を図る	B	・AP台数・電波範囲・購入額の選定。 ・APを購入。AP側と管理画面にて設定中。	
			③年間到達度評価		備考
			指標	説明	
			B	・AP台数・電波範囲・購入額の選定。 ・APを購入。AP側と管理画面にて設定中。	コスト削減のため業者に依頼せず情報センターにて構築中。次年度も継続し構築する。

委員会・部局名	情報システム委員会
記入日	2023年 3月 31日

2022年度 活動報告書

1. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		備考
	項目		指標	説明	
17	項目	清風祭における情報教育イベント（パネル展示）	—	（中間報告後の追加項目）	
	到達目標	・大学LAN環境紹介のパネルを作成・展示し、学生および教職員に対する情報環境への興味喚起と理解促進を果たす			
			③年間到達度評価		備考
			指標	説明	
			B	・AP台数・電波範囲・購入額の選定。 ・APを購入。AP側と管理画面にて設定中。	コスト削減のため業者に依頼せず情報センターにて構築中。次年度も継続し構築する。

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期（半期報告書）・次年度（年間報告書）以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
「I（年間計画・到達度評価）」シート記載の3、4、9、15、16については未完了の作業があるため、次年度に継続対応する予定である。

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
「I（年間計画・到達度評価）」シート記載の5、7、9、10、14、15、16、17は、研究・教育活動におけるネットワークやマルチメディア機器の利用を促進する取り組みである。

IV. 特色のある活動・取組み/新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
「I（年間計画・到達度評価）」シート記載の8や14は、本学の特色や活動内容を世間に広く知ってもらうための新たな広報戦略であり、定量的に評価できる成果を上げている。

ご協力ありがとうございました。